

特集 SPECIAL FEATURE

私の余暇の過ごし方

一向に回復しそうなない景気のなか、「仕事でストレスがたまって大変だ」とこぼされている方も多いのではないのでしょうか。仕事が趣味だと言われる方もいるでしょうが、余暇の過ごし方が大切になっていることは事実です。前半では、OBの方の余暇について、後半では、築理会サークルの各リーダーに活動内容などを寄稿してもらいます。

建築も青磁も趣味

漆畑 登 (部3期)

設計工房URU建築設計事務所代表

卒業後、村田政真建築設計事務所の時、近くの建築家協会のサロンに毎日出入りしていた時期がありました。その折り陶芸を知り、初めての轆轤でスーと自分の世界に入ってしまった。また、陶芸の世界など今のように存在しない時でした。その後、箱根の強羅ですごい「物」を観てしまったのです。中国南宋時代(12世紀)の郊壇官窯の広口の「青磁」の壺です。「永遠」とか「不変」という言葉はこのような「壺」にあるのかとおもいました。すごい感動でした。つい々、この「壺」を私の手で、という気持ちになってしまったのです。それから聞くも、語るも涙!、出口の無い闇の中をさまようことの20数年間で、普通の青磁は鉄の還元で出来るのですが、私が憧れる青磁とは程遠いものです。あとで、「官窯系青



青磁輪花鉢

築理会会員による

OB会・サークルの情報募集

築理会のネットワーク強化に向け、同期会をはじめ、職場や研究室、地域ごとの任意のOB会・サークルなどの情報を募集します。

活動内容、責任者とその連絡先などをFAX(8ページ参照)にて築理会事務局までお寄せください。

築理会事業委員会より

磁は「玉」といわれ、陶磁器の王者と言われている事。「青磁をやると家が潰れる」という事、等々いろいろ恐ろしいことも知りました。よく考えれば、何千年の歳月と幾多の陶工を経て完成されて来た「至玉」の官窯青磁を私の時間内で作ろうなどということ自体にバチがあたります。そのうち、張り切りも限界が来て、生かされている自分。結果を求めない。など都合の良いあきらめを見つけました。

昨年、静岡県東海道四〇〇年祭で「富士・岳南の土塊で青磁 天晴不二」をつくる!という企画で参加いたしました。霊峰富士の岳南の土塊で青磁をつくる企画です。青磁は真、行、草でいうと「真の中の真」、完璧の世界です。真と草(日本的なキズを景色と見る)の相対する世界を一つの作品のなかで表現できないか、など今までの青磁にない試みと、オリジナルの「色繪万華」も課題としました。このHPIは総務省のインパク芸術部門で自由参加パビリオンとしても運営いたしました。また、国際ビエンナーレ2001大韓民国の昨年、青磁は「高麗青磁」の国での評価です。利川(イチョン)の世界陶磁器センターで常設展示されています。

今でも、青磁は窯のなかで全滅があります。神のみぞ知る世界でいつもウロウロしています。想像できない世界は私を夢中にさせます。長い間、建築も陶芸も趣味のようにやってきたように思います。ただ、ロマンでやっていけるといいのですが。

ホームページ:

Yahoo! JAPAN : 芸術と人文 : デザインアート : 建築 : 建築家 : 個人作品集「建築家・陶芸家・漆畑登」
「富士・岳南の土塊で青磁 天晴不二」をつくる!
<http://www.asahi-net.or.jp/~aq6n-ursb/>

平成14年 築理会
総会・懇親会のお知らせ

今年の築理会総会・懇親会を下記の予定で開催します。なつかしい顔に再会できるかも...
皆様お誘い合わせの上奮ってご参加下さい。

日時: 5月17日(金)

総会: 18:30~19:00

懇親会: 19:00~21:00

場所: 理窓会館2階会議室

会費: 4,000円

汗を流す快感とゲーム後のビールが活力

藤村 博(部5期)

鹿島 建築設計エンジニアリング本部構造設計Gr.

早いもので大学院修士課程を終了後30年になりました。会社では建築の骨組みを設計する構造設計部に席を置いております。近年教育文化施設の構造設計を多く手掛けております。さて、本題の余暇の過ごし方について述べさせていただきます。私は大学に入りテニス部に入部して、生まれて初めてテニスをやってみました。きっかけは体育の単位を取るためでした。しかし大学には確か1号館の屋上にコートが1面あったのですが、そこは軟式テニス部のコートとして占有されており、硬式テニス部は三菱重工が小田急線成城学園前駅近辺に保有していた独身寮のコートを借りて練習していました。コートへ行くのに神楽坂の校舎から約一時間かかったと思います。講義の合間又は終了後にコートへ行って練習しました。コートへ行けない時は一応体育会ですので神楽坂近辺をランニングさせられる訳です。ランニングのコースは皇居一周が多かった様に記憶しています。ランニングを避けるため、出来る限りコートに出掛けた記憶が残っております。

今の会社に入ってから今日までテニスが余暇の大部分の時間を占めております。会社では入社から7~8年テニス部に属して、対抗戦等も出させて頂きました。現在は自宅近くのテニスクラブで、週末を女房と一緒に掛けて練習したり、クラブの仲間とゲームを楽しんだりして過ごしています。十年位前には、朝8時45分にはテニスコートに入り夕方暗くなるまで一日中クラブに入りびたりで午前と午後併せて1セットゲームを8ゲーム程度楽しんでいましたが、ここ6~7年前から午後の部に参加する程度になってしまいました。当時は未だ体力が有り余っていたものと思います。今ではアフターテニスが楽しくお酒と世間話に興じております。毎年春と秋には、クラブの仲間十人程度で河口湖、山中湖等へテニス合宿を企画して昼はテ



ニス、夜は酒盛りに大騒ぎすることを楽しんでいます。

テニスの楽しみの真髓を一言で言い表すと、汗を流すことの快感とゲーム後の喉越しのビールの旨さは最高です。週初めの筋肉痛もそれを乗り越えた時に体が軽快になる良さが何とも言えません。別にテニスに限らずどんなスポーツでも同じ楽しみを味わえると思います。自分の好みに合ったスポーツを探して、仲間や家族と楽しむことが余暇を有効に過ごす秘訣だと思っております。身体が第一、適度の運動と適量のお酒、ストレス発散と日頃の活力を育むため毎週大いに楽しんでいます。

こんなこともしています

大部 淳一(部1期)

東設計事務所

私が卒業して地元の水戸へ戻り、早くも22年が過ぎました。

それは「これ、クリスマスツリーにならないかなあ？」から始まりました。

今から8年前の初冬のこと、友人数人と雑談をしている中での近所に子供服店を構える知人の言葉でした。これとは水戸芸術館(設計:磯崎新アトリエ)の高さ100mのシンボルタワーでした。その当時、日本経済はバブルもはじけ、関東のはずれの一地方都市である水戸市も商店街は徐々に活気を失い、若い人たちにとっても魅力のない街になりつつありました。何か自分たちの住む街を元気付けさせることは出来ないかと話し合っていたころでした。

「面白そうだね」その一言で、やってみようということになったのですが、それからが大変でした。水戸芸術館は、水戸市の施設なので勝手に飾り付けをすることなどできるはずがありません。またこのタワーは、正四面体を組み合わせた三重螺旋のため、オーバーハングをした面があり、また高さが100mもあり、どういう方法で飾り付けをするのか、費用はどうするのかなど、問題ばかりが立ちはだかりました。そこで、仲間を集めようと各自が先輩や友人に声をかけ、またその人たちが声をかけるということで、業種も年齢も異なる30人ほどのメンバーで実行委員会を組織することが出来ました。1996年の春のことで、あの一言から1年半が過ぎていました。

その中でいろいろのアイデアが出され、他の都市での事例を参考にするなどして「子供たちに年に一度の夢を見せてあげよう」という趣旨で、1996年12月1日から翌年の1月15日(当時は成人の日)までの期間、



午後5時から午後10時30分まで水戸芸術館のタワー、建物、樹木をイルミネーションで飾る、『アートタワーみとスターライトファンタジー』という名称の事業としてスタートすることになりました。事業費用は、市民からの寄付金・協賛金で運営し、スタッフは一般から募集し、水戸芸術館の広場を使用した数々のイベント等も企画されました。

現在では市内の商店街が期間を合わせてイルミネーションで飾り付けるようになり、12月31日の年越しのイベントには、芸術館の広場いっぱい人が集まり、子供たちが主役のイベントは子供たちの晴れの舞台となっています。いろいろな問題がないわけではありませんが、1999年には、茨城県よりまちづくりに対して貢献したとして賞をいただき、水戸市からも毎年補助金をいただける事業となりました。

ほんの小さな一言から始まったことなのですが、自分たちが楽しいと思えば良い事だと考え行動することが、多くの人を動かし、まちづくりになり、人づくりにもなるということを感じているところです。そして何より、多くの人たちと知り合えたことが私にとって一番の財産となっています。

マウンテンバイクの機能美に愛着

枝村 薫 (部21期)

私が最初にマウンテンバイク(以下MTB)に魅了された理由、それは、なんといってもそのスタイル、デザインにあったと思う。当時19歳であった私は、アメリカを旅行中、山や町中を颯爽と走るMTBのあまりのカッコよさに完全に打ちのめされてしまったのである。当時、まだ日本ではMTBは現在のようにポピュラーでなく、若者には、けっこう高価な代物であったが、私は、アルバイトでお金を貯めて、ついに憧れの一台を手に入れたのであった。それ以来、11年間、

MTBは常に私の生活と共にある。通学から始まり、通勤、ツーリング、クロスカントリー等など、とにかく、こいつはタフな乗物なのである。最初こそ、そのデザインに魅せられて手に入れたMTBであったが、乗れば乗るほど、知れば知るほど、その洗練された機能美に愛着がわいてくるのである。

最近の自転車ブームによって、MTBの進化はとどまることを知らず、都会の街中でも、たくさんのバイクを見るようになった。しかし、なんといっても、MTBの能力を最大限に引き出し、走る楽しさを感じさせてくれる場所は、その名が示すとおり山(マウンテン)なのである。山道を走っていると、どうしてMTBがこうゆう姿になったのかがよくわかる。無駄な飾りを一切取り除いたシンプルなデザイン、太くてごついタイヤ、27段もあるギヤ、前にひっくり返りそうになるほどよく効くブレーキ、その全ての存在意義が山では、はっきりと理解できる。この完成されたバイクに乗り、道なき道を、風をきって駆け抜けるスリルと爽快さといったら最高にエキサイティングであり、転倒もなんのその、痛み付きになること間違いなし(もちろん、その前には長く苦しい上り坂があるのだけれども...)。そして下山して待っている最大の楽しみ、それは温泉である。温泉なくしてはツーリング計画は完結しない。企画時から下山場所を温泉の近くにすることが大原則なのである。泥と汗にまみれた体をすっきりと洗い流し、空を見上げながら温泉につかる。想像するだけで幸せの絶頂ではないだろうか? 余裕があれば、その後にバーベキューで盛り上がるなんていうのも正しい締めくくり方である。

こんな感じで私は、短い週末を楽しく過ごしているわけだが、皆さんはいかがだろうか? 日頃は事務所や現場で建築のことばかり考えている方が多いのでは? たまには人工的な美から自然の美へ視線を移し、リフレッシュするのも良いものですよ(私はたまには街を見ると上司に常になんて言われていますが...)



写真同好会

写真は仕事？ 趣味？

大岩 昭之(部3期)
東京理科大学 助手

昨年11月に開催した写真展「チベット建築巡礼1996-2000(ドイフォトギャラリー)」は、私にとっては4回目の写真展である。タイトルにもあるように、これは5年間のチベットでの取材の記録である。私と写真との関係は、チベットと切り離すことができない。今からおよそ20年前(1982年)初めて海外旅行がインドの北西部ラダックであった。この2年程前に西武百貨店でマンダラ展が開かれた。マンダラもさることながら、そのマンダラが描かれているゴンパ(寺院)に興味を引かれた。実際にそれらのゴンパを見た時、厳しい自然と対峙する建築、そしてまだあまり紹介されていない未知なるもの、これらを記録しておくことは意義があることではないかと思った。それで、次にチベットに行った時(1983年)には今も使っている6×6のカメラ(ハッセルブラット・当時はかなり高かったが)を持っていった。これが私と写真との関わり始まりであり、それ以来、チベット(文化圏)での取材は22回に及び、重いカメラバックを背負っての取材は続いている。

チベット文化圏の建物を記録すること。これは私のテーマである。チベットについても以前とは変わってきている。現在においてはその気になればほとんどの地域に行くことができる。それでもまだまだ紹介されていない地域もある。昨年行った東チベット(四川省)ザムタン 壤塘は未解放地域であった。ここでは、宿泊はしたが次の朝退去させられて予定していた寺院には行くことができなかった。暮れから正月(今年の)にかけて行ったチベット(自治区)ツェタンの東、曲札(拉加里王宮)では、写真を撮って宿舎に戻ってから公安が来たようで、未解放地域に入ったという事でガイドは相当にシボラれたとの事である。幸いにも私たちには、お咎めはなかった。未解放地域でなくても、以前写真を撮れたところでも、再度行くと写真が撮れないところもある。撮れると時に、撮っておく必要がある。ところで、私にとって写真は仕事？趣味？。私は仕事だと思っている。チベット建築をテーマとしている人は、我が国ではまだほとんどいない。何らかの形で世の中に残していくことは意義のあることと思っている。

さて、趣味としての写真であるが、学科の同窓会、築理会も大きくなっている。そしてそろそろ第2の人生に入ってくる人達も出てくる。今までの仕事だけでなく、何か同じ趣味を持つ仲間が集まることであってもいいのではないだろうか。理科大神楽坂もこれから大きく変わる、あと数年たてば建替えも始まる。しかし、幸いなことに神楽坂には理窓会倶楽部があり、集まる場所は確保できる。神楽坂にたまに集まりませんか。写真の好きな方集まりませんか。もし関心があるようでしたら連絡下さい。



ナムセリン荘園(チベット)

探索街歩き同好会

私の街ウォッチング

五十嵐 真人(部8期)
積水ハウス(株) 横浜シャームゾン営業所

仕事柄、東京都内及びその近郊の街を、毎日グルグルと出回っています。

街との触れあいは2つの視点から。

1つはビジネスの視点。

土地の有効活用を提案する仕事柄、どうしても「街」を事業的視点で判断しがち。「容積は消化できるか？、周辺条件はどうか？、賃料はいくら取れるか？、商業施設は成立できるか？、競合物件はどうか？...」こういう視点で街を判断すると、最近よく感じる「不動産の利用価値がほとんどの街で大きく衰退している」ということです。駅前でもテナントが付かない立地や、家賃相場が大きく崩れて新築の賃貸マンションでも家賃が取れない立地を抱えた街がすごく多いのです。

逆に渋谷や麻布といった街は家賃が上昇傾向で、月額200万円を越すような賃貸マンションが埋まってしまうのですから、「不動産の2極分化」は本当にすごい勢いで進んでいるように思います。

さて、合わせて2つ目が「趣味」的視点です。

私はそれぞれの「街」風景が好きです。特に「季節感」と「歴史感」が感じられる街風景がたまに好きです。特に季節感といえば、去年の春は妙に街中に咲く花々に心を揺さぶられました。ガーデニングブームのせいかな、気が付けば街が全般的にお洒落になってしまった！庭先やマンションのベランダ越しに色鮮やかに香る春の草花たち。私は特に青紫系の花に弱いみたいで、わすれな草やアルペンブルー等、行く先々の街で出会う「爽やかな風にそよぐ青紫の花情景」に何度心を奪われたことか...至福の時間を何度も経験してしまいました。

また、今更何ですが「東京は本当におもしろい街」ですね！あまりにも多種多様な顔がある。はっきり言って刺激がありすぎる。浅草や月島といった古き良き下町風情の街も健在なら、ほんとお洒落な代官山や原宿・神宮前の街並み等。また再開発で街の風景が大きく変わる品川・新橋・大崎に六本木などは実にドラスチック！経済の街、政治の街、若者の街、年寄りの街等、文明と文化が複相する街「東京」。東京の街は実にダイナミックで奥深い...なんて、毎日そんなことを感じながら仕事をしている次第です。

事業委員会では、「東京の街」ウォッチングを年内に企画したいと考えております。もしおもしろい企画・やりたい企画があれば是非ご一報ください。ご連絡お待ちしております。

登山同好会

山登りの仲間を募集

市川 尚紘(部28期)

東京理科大学工学部 鈴木研究室

前回の築理会会報のインフォメーションで紹介させてもらいました登山同好会の紹介をします。僕は、約5年前から週末の趣味として山に登っています。最初はオートキャンプをしたり、釣りをしたりと幅広くアウトドアの遊びをしていましたが、運動不足や費用の面を考慮して、某山岳会に所属して登山をはじめました。しかし、仕事の関係等で週末の予定がはっきりとしないことが多く、2年ほど前から個人で山に行くようになりました。といっても、会に所属していた当時の仲間が多く、更にその友達が多くなり、今は約20人(ほとんど20代と30代)の山仲間がいます。

活動は約2回/月程度。行き先は日帰りでは中央線沿線の山や、奥多摩、丹沢、秩父方面が多く、泊まりでは北・南アルプス、八ヶ岳を主な活動範囲にしています。初心者向けや中級者の向けなど、その都度難易度はお知らせします。リーダーもその都度決めます。また山以外にも、春に花見をしたり、冬に餅つきをしたり、秋に神輿を担いだりもしています。そして下山したら、通常は居酒屋で2次会をします。その時飲むビールのおいしさは言葉では表現できません。

自然の魅力はいまさらいうまでもありませんが、人の手の入っていない山の自然は、都会の公園とはまったく違うものです。荷物を最小限に抑えることで、何が本当に必要なものか、そして贅沢かを考えたりします。時には野生のサルやシカ、イノシシと遭遇したりします。おいしい湧き水も飲み放題です。つまり、自然の美しさと豊かさ、厳しさを同時に体験します。

今回、築理会で登山同好会として募集しましたが、他の山岳会のように、会則を設けたり、会報を配ったりする予定はありません。良識と協調性さえあれば十分だからです。山に登る予定があれば興味のある方にお知らせし、一緒に山に登る友人が一人でも増えればと考えています。そして、趣味と築理会がきっかけで建築関係の交流が広がっていくのもすばらしいことだと考えています。もし、興味がありましたらご一報ください。

なお連絡方法は、多くの方へ電話をかけるのは大変な労力となるため、基本的にeメールでお願いします。



餅つき集合写真

ジョギング同好会

明治神宮外苑へ集合!

入野 公男(部15期)

(株)長谷工設計 設計監理部

寒さが厳しい折、築理会会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。築理会事業委員会では昨年の10月から築理会会員の親睦を深めるためサークル活動を企画しその活動を始めました。最近健康ブームで各地では色々なスポーツ大会が開かれ盛況です。そこで、今回はジョギングサークルについての活動内容をお知らせします。これまでに2回の練習会を行いました。11月は皇居にて、12月は明治神宮外苑にてそれぞれジョギングを行いました。その後は近くの店で都合の良い方だけ残り食事をしました。これまでジョギングをしていた人も今回が初めての人もいますが、各人のペースで周回コースを景色を楽しんだり、会話をしながらゆっくりと約1時間30分程軽く走り汗を流しました。

走行距離は約10キロになります。後日、電話で参加者に確認したところ、筋肉痛になった人もいましたが、今後も都合がつけば参加したいとのことでした。

12月の明治神宮外苑でのジョギングサークル中に、エスピーの瀬古監督にたまたま出合いエスピーの練習中とのことでしたが写真を撮らせてもらい色々とお話を伺いました。

今後も引き続き月に一度の予定で行いますので皆様の参加をお待ちしています。尚、各サークル活動の詳細は下記各担当に直接お問い合わせ下さい。



記

築理会サークル活動のお知らせ

1. 写真同好会: 大岩昭之(1-3)

写真好きの方、写真展(インフォメーション掲載)

E-Mail: teru@rs.kagu.sut.ac.jp

2. 探索街歩き同好会: 五十嵐真人(2-8)

E-Mail: martvoice@hotmail.com

3. 登山同好会: 市川尚紘(1-28)

近くの山で休日を楽しみましょう

E-Mail: ichikawa@rs.kagu.sut.ac.jp

4. ジョギング同好会: 入野公男(1-15)

運動不足とストレスを解消し、美味しいお酒を飲みましょう

E-Mail: Kimio_Irino@haseko.co.jp

FAXでお問い合わせの方は築理会FAXをご利用下さい。

会員の皆様で楽しい企画があれば築理会FAXまでご連絡下さい。

築理会一期生卒業 35 周年記念パーティー開催 三松 一宇 (部 1 期) 鹿島建設

昨年の初秋の11月9日、品川プリンスホテル新館24階"軽井沢"にて建築学科一期生の同期会が前回の目黒雅叙園にて開催以来10年振りに開かれました。今回初めての出席の方々もおり、昔話に、懐かしく、楽しい時を過ごすことができました。

出欠状況は、卒業生79名のうち出席者39名でした。欠席の返信が32名。未回答者が4名。1名は後日連絡が取れました。連絡が取れずにいる未回答の3名と宛先が分からない者が3名。計6名の近況が未情報です。

ご多忙のなか、武井正昭先生、井口洋佑先生、平野道勝先生、岸田英明先生(順位不同)4名の先生に御出席いただきました。また柘植芳男先生からはお手紙と祝い金を頂きました。お手紙は会場でコピーを皆様に配りましたが、今年で白寿を迎えられるとのことで、御身体に少し自信がもてないとのことで御欠席されました。また我々一期生もそろそろ還暦を迎える年齢ですので、励ましのお言葉もいただきました。いつまでもご健勝であられることをお祈りいたします。機会を見て代表者が会の報告がてらお訪ねすることとしてあります。武井先生はやや年が上ですが、後のお三方と我々とは10才位の年齢差しかありません。先生方も退任され、非常勤になられておりますが、講義を持たれお元気に勤めていらしゃる様子です。一方我々卒業生は、一浪と二浪が同じ位の数で、大半を占め、現役と三浪以上がやはり同じ位の数で数名という構成だったと思います。出席者全員に一、二分間のスピーチで近況などを話していただきましたが、現在の建設業の状況から、早期退職、定年退職、第二の職場、引退と様々な現況でした。我々が社会に出た年(昭和41年)は景気の谷間で就職難の年でした。しかしその後持ち直して景気の波はありましたが、高度成長期で、建設ブームの時を過ごしてきたことは事実です。建築では超高層ビル、原子力発電所、全天候型大型施設、再開発事業などと、またそれに伴う各種の建築技術の開発と、今思うとかなり急ピッチで時代が動いてきたように感じます。その時代に仕事ができただけは幸せであったと思いますが、その反面仕事人間になってしまったかもしれません。その反省は皆さんお持ちだと思います。まだ現役の者が大半ですが、いずれは仕事を離れていく目が見えます。その時日本人は日本の社会のなかで会社(会社人間)だけかもしれません(が)から離れると、何をして生活すべきか迷う人が多くいるといわれますが皆さんは如何ですか。そこで人間関係が大切になってくると思います。その時の友、同期を忘れずに。"力"に成り合えたら嬉しいことです。残念ながら今建設業は難しい時期で、皆さんもいろいろな立場で難しさを抱えておられる方が多かったと思いますが、昔に戻れたこの楽しさが明日の活力になったのではと思っております。今回は皆さんの話す時間を沢山取

訃報

柘植芳男元教授が今年1月逝去されました(享年99才)。

柘植先生は昭和40(1965)年から昭和56(1981)年まで理科大学建築学科に奉職されておりました。研究室の卒業生は1期生から8期生までいます。ご冥福をお祈りします。

ることを企画し、受付開始から三時間の会場設定としましたが、瞬間に時間が経ち、最後の方のスピーチは駆け足となってしまい失礼いたしました。また関西方面から6名の方に出席いただきました。遠路ご苦労様でした。

今回の開催は3年後か5年後か未決定ですが、元気で会うことを約束して散会いたしました。10年前に御出席いただき、我々一期生の就職担当でご苦労された、森脇先生がその間に他界されたことを最後にご報告させていただきます。ご冥福をお祈り申し上げます。以上

追伸：柘植先生は12月20日にご逝去されました。幹事から会の報告にお伺いするアポイントを取っていた矢先のことでした。白寿のお祝いと会の報告を申し上げられませんでした。残念です。ご冥福をお祈り申し上げます。

築理会と野田建築会の名簿を合作して発行 築理会副会長 森本 仁 (部 1 期)

鉄建建設 株 エンジニアリング本部 技術研究所

築理会は1966年(昭和41年3月)に第1期生が卒業して以来、卒業生有志により同窓会を組織し、名簿作成をし、関係者の努力により、立派な名簿になっております。初めは現在の半分の大きさで、毎年100人近い卒業生と、部建築学科(70名程度)が1980年(昭和55年)から加わったため、処理が難しくなり、現在の大きさに変わりました。

企業の中で活躍していた1期生も、定年を迎える年齢になり、第2の人生を新しい企業で送る人もでて、同級生の最新の動向を把握することが重要な作業になってきております。名簿は正確性を一番とします。名簿作成に卒業生一人一人の関心と協力をお願いしているところです。

一方、東京理科大学理工学部建築学科が千葉県野田市設立され、1970年から毎年140名近くの卒業生を送り出してあります。1998年(平成10年)から同窓会が組織され野田建築会として名簿が発行できるようになりました。

両同窓会がこれから何ができるか模索を初め、情報交換会をしてあります。世間一般の人には工学部が理工学部かはあまり区別して取り扱われておりませんが、私たち築理会は野田建築会の情報を持っていないので時々困ることがあります。これは野田建築会も同じです。

そこで、両同窓会の幹事会が協議して、同窓会名簿は東京理科大学建築学科の卒業生名簿として統一したいとして活動を開始しました。初年度は合作名簿として発行します。

合作名簿は、現在ある名簿の中身を変えずに名簿を合わせて、索引のみ共通にする事で作業を始めてあります。3月には新しい名簿が完成し配布できるとおもいます。

ご支援のお願い

3月に実施される日本建築学会の代議員選挙に築理会副会長の森本仁君(部1期、鉄建建設技術研究所所長)が立候補しています。氏の豊富な知識と経験と実行力は建築学会の発展と築理会の発展にも寄与すると確信します。建築学会会員の方には、ご支援をお願いいたします。 築理会会長 野々村俊夫

(追記) 2月中旬に発行される学会誌に名簿が掲載され投票用紙も添付されています。投票締め切りは3月15日です。

連載 研究室紹介(第6回)

研究室紹介、第6回目です。日常大学から疎遠になりがちなOBの方々に理科大の今を知ってもらうため、現在どんな研究をしているのか等、研究室内から記事を寄せて頂くコーナーです。

今回は大月研です。どうぞお楽しみ下さい。

大月研究室紹介

はじめに

大月研究室は2000年に新しくできた研究室で、第一部門で建築計画を担当しています。研究室は、学部創設期から教鞭をとってこられた井口洋佑先生を引き継ぎ、7号館9階に構えています。

研究室を切り盛りしている大月先生は、東京大学出身で、横浜国立大学を経て東京理科大学にいらっしやいました。若干34才で、社会人大学院生や2部の学生もいるここでは、学生が年上であることもしばしばです。23時に巡回する警備員の方にはまだ先生として認識されていないようです。しかし多方面で活躍しておられ、2001年度の日本建築学会奨励賞を受賞されました。受賞対象となった「集合住宅の住戸ユニットの経年的変化について 同潤会代官山アパートの住みこなしに関する研究 その1」では、同潤会代官山アパートにおける居住者の柔軟性によって実現したダイナミックな住みこなしの経緯を明らかにされました。さらに同潤会の事業や建築群の意味を問い直すため、建築関係者や有識者、学生が参加している「同潤会を考える会」の幹事も務めてらっしゃいます。(<http://www.rs.kagu.sut.ac.jp/%7Eolab/dojun-kwai/>)

また現在、雑誌『住宅建築』で「集合住宅寫真館」を連載しています。興味のある方はご一読ください。老練な文章を書いているらしいです。

現在の体制

研究室には、先生の下、補手の私と大学院生10名、フィリピンからきた研究生1名、学部生16名の総勢29名が在籍しています。席があるのは院生以上で、4年生は作業スペースを求めて放浪しています。平均2名程度が毎夜宿泊し、研究室にはエアベッドや寝袋が常備されています。最近では女性の宿泊も認められるようになったため、メッセンジャーなどは宿泊している女子学生も見かけます。また井口先生も非常勤嘱託教授として週に3度ほどいらっしやいます。卒研生も1名います。旧井口研究室が大月研究室と井口ゼミで棲み分けている格好です。研究室内で最も容積を占めている

のは本です。窓を除く壁面は床上1000位から天井までほとんど本で埋まっています。本の下に机やPCが設置されています。PC環境は年々変わり、院生以上にPCがあり、学部生にも全員分ではありませんがノートPCがあります。自宅には自分のPCを持っている学生がほとんどで、相当ハイスペックなPCを持っている者もいます。

研究テーマ

大月研究室では、経済の悪化や環境問題など近過去の建設活動が見直されている現在、通史的横断的に社会を捉え、既存のものから学べるものを学び、今ある環境やストックをいかに運用・継承していくかをテーマに研究活動を行っています。研究は週に1度開かれるゼミと、クリニックと呼ばれる個別研究相談で進んでいきます。クリニックは基本的に受診側の希望があれば月曜日の午後に関われます。しかし症状が重度になると呼び出されることもあります。成果の発表の場は、学内の発表会の他に日本建築学会や都市計画学会、各種研究会、雑誌などです。

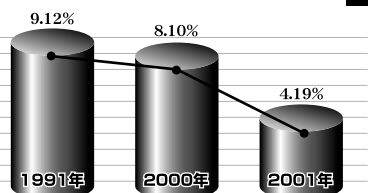
研究内容

1. 国内で近代以降に建設された集合住宅の建設状況を明らかにし、残存・滅失・更新状況を把握し、長期経過した事例を調査し、集合住宅ストックの可能性を探っています。
2. 同潤会アパートメントを中心に、再開発前の居住実態を明らかにし、再開発後の居住継承について研究しています。
3. 戸建て住宅に関しては初期のユニット住宅を調査し、都市圏の戸建て住宅像を捉え、長期居住地、終の棲家としての運営のあり方を考察しています。
4. 住民参加のまちづくりが進むなか、一つの自治体に実際に関わり、町の捉え方・自治体のあり方・町内会組織の見直しなど町運営を様々な角度から検討しています。
5. 海外でも低所得者居住地区で実際のまちづくりを支援したり、調査したりして住まいや地域というものを根元的なところから捉え直しています。
6. 戦前戦後に国営の住宅供給機関であった住宅営団の活動について、資料や実際に残っている建物を通して再検討しようとしています。

HPには研究のテーマと概要を載せていますのでご参照下さい(<http://www.rs.kagu.sut.ac.jp/olab/>)。感想などお寄せいただければ幸いです。また、卒業生を頼って、学生が調査でお伺いすることがあるかもしれません。その節はよろしく願います。(2001.12.5 7号館9階にて 補手：安武敦子)

データに裏付けされた確かな「実績」こそが真の「実力者」を生む!

平成13年度 1級建築士
全国受験者の
学科・設計製図ストレート合格者 **4.19%**



教育訓練給付金制度指定講座有 **案内書無料進呈**

※支給条件がありますので、必ず最寄りの日建学院へお問い合わせ下さい。

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-21-16日建学院ビル7F

0120-243-229

URL <http://www.ksknet.co.jp/nikken/>
E-mail nikken@ksknet.coi.jp

全国130校・650常備教室建築関連資格教育のパイオニア

日建学院 株式会社 **建築資料研究社**

インフォメーション

平成13年築理会活動報告

昨年各委員会の活動概要を報告いたします。

- ・総会・懇親会の開催(5月)
- ・築理会会報の発行(3月、9月)
- ・築理会名簿の発行(4月)
- ・幹事会・常任幹事会の開催(2、4、7、10月)

平成13年決算報告・平成14年予算案

昨年度の決算および今年度の予算案につきまして、下記のように立案いたしました。来る総会にて会員皆様のご承認を頂きたいと、お知らせいたします。ぜひ総会にご出席頂きますようお願いいたします。会報ならびに名簿による広告収入もありますが、築理会費が総収入の90%を占めています。活動の趣旨をご理解の上、会費納入をよろしくお願ひいたします。

(企画総務委員長=坂下誠, 部2期)

平成13年築理会決算報告

収 入		支 出	
平成12年度繰越金	1,205,875	会報(2回)	1,226,313
築理会年会費	1,249,500	名簿	1,075,716
築理会終身会費	480,000	HP維持費	44,600
総会・懇親会	112,000	総会・懇親会	101,686
広告収入	374,220	事務費	61,162
料金後納担保金返金	240,667	運営費	94,913
その他	8,021	通信費	33,980
銀行利息	404	繰越金	1,032,317
合 計	3,670,687	合 計	3,670,687

平成14年築理会予算案

収 入		支 出	
平成13年度繰越金	1,032,317	会報(2回)	1,150,000
築理会会費	1,810,000	名簿	700,000
広告	350,000	事業支出	100,000
その他	10,000	HP維持費	45,000
		事業費・運営費	200,000
		通信費	60,000
		予備費	100,000
		繰越金	847,317
合 計	3,202,317	合 計	3,202,317

「編集後記」

築理会が学外のOBを主体とした活動に移行してから、かなりの月日がたちました。会報委員会も1年に2度の発行サイクルで活動が落ち着いています。その一方で、マンネリ化対策も考えなければいけない時期を迎えています。会報委員が定期的に交代することも必要です。会報委員として会報づくりに協力してほしいというOBの方がいればぜひご連絡ください。

(森清=smori@nikkeibp.co.jp)

築理会報2002春号
2002年2月発行 Vol.30

発行所 : 東京都新宿区神楽坂1-3
東京理科大学工学部 部建築学科
築理会事務局 03-3260-4271(内3293)
03-3235-6897(FAX)

編集長 : 森 清
編集委員 : 広谷純弘、伊藤学、伊谷峰、安達功、千田猛、
諸岡伸幸、中川信浩、平賀一浩、大野紋子
印刷発送 : グローバルシステム株式会社

平成14年会費納入のお願い

現在、平成14年度の会費の納入をお願いしております。同封の振込用紙にて、お振り込み下さい。今後のさらなる築理会発展のため、多くの方のご協力をお願いします。

年会費 3,500円
加入者名 築理会
口座番号 00110-5-171952

募集します!

会報委員会では、築理会報の各コーナーへの記事を募集しています。どんな些細な情報でも首を長くしてお待ちしております。また、建築にこだわらず、おいしい料理の作り方や、うまいラーメン屋情報、あなたの楽しい旅行記、その他の記事・情報、また、はみだしチクリにもどんどんお寄せください。築理会あてFAX若しくは電子メールにてお知らせください。

データ確認カード返送のお願い

住所、職場、部署等に変更のございます方は、下記データ確認カードにご記入の上、築理会事務局までご返送下さいませお願い致します。

最新データに基づいた名簿作成、編集のためご協力をお願い致します。

送付先: 築理会事務局 名簿作成委員会

(FAX: 03-3235-6897)

築理会員データ確認カード		記入日: 20 / /	
ふりがな:		卒業年	年3月
名前:	(旧姓)	(期 研)	
		<input type="checkbox"/> I部	<input type="checkbox"/> II部
ふりがな/勤務先:			
ふりがな/部署・役職:			
		TEL	
		FAX	
電子mail:			
現住所: (〒)			
		TEL	FAX
電子mail:			
現住所以外の安定的な連絡先, 具体的な連絡方法及びTEL:			
所属学会			
<input type="checkbox"/> ()	<input type="checkbox"/> 日本建築学会	<input type="checkbox"/> ()	
<input type="checkbox"/> ()	<input type="checkbox"/> ()	<input type="checkbox"/> ()	
通信欄			

お手数ですが拡大コピーをしてFAXにてお送りください。